

令和2年度厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）
「CBRNEテロリズム等の健康危機事態における対応能力の向上及び人材強化に関わる研究」

分担研究報告書

「生物テロ対策とリスクマネジメントに関する研究」

研究分担者 齋藤 智也(国立感染症研究所・感染症危機管理研究センター・センター長)

研究要旨

生物テロ対策は、2001年の米国炭疽菌郵送テロ事件以来、目立った事例は認められないものの、発生時の社会的インパクトは非常に大きく、マスギャザリングイベントを控えて備えるべき脅威の一つである。世界健康安全保障行動グループバイオロジカルワーキンググループは生物テロ事象等感染症に関してより専門的な知見から意見交換する枠組みだが、この1年間は新型コロナウイルス感染症対策に係るリソースが注ぎ込まれ、生物テロに関する言及はなされなかった。一方、このような国際的な討議空間は極めて貴重であることから、新型コロナウイルス感染症への対応から、少しずつ生物テロ対応への教訓をフィードバックしつつ、有事の際の意見交換枠組みを維持する必要がある。

A. 研究目的

東日本大震災以降、危機における国の役割の強化が課題である。今後多くのマスギャザリングイベントを控え、CBRNEを用いた災害、テロのようなリスクの増大もあり、厚生労働省の健康危機管理・テロリズム対策の医療・公衆衛生の強化は喫緊の課題である。特に生物テロ対策は、2001年の米国炭疽菌郵送テロ事件以来、目立った事例は認められないものの、発生時の社会的インパクトは非常に大きく、マスギャザリングイベントを控えて備えるべき脅威の一つである。

世界健康安全保障行動グループ（GHSAG）は、G7とメキシコ、WHO、ECの保健大臣級による生物・化学・核・放射線テロ及び感染症パンデミック等公衆衛生危機対応への連携を目的としたグローバルネットワークである世界健康安全保障イニシアチブ（GHSI）のもとに組織された実務者レベル

の会合である。従来この中の、リスク管理・コミュニケーションワーキンググループがリスク管理全般のテーマの一つとして、生物テロ・感染症事例（新型インフルエンザを除く）を扱ってきたが、令和元年12月にバイオロジカルワーキンググループ（GHSAG BioWG）に改組され、主に呼吸器感染以外の感染症・生物テロ問題を扱うグループになった。このような国外の専門家ネットワークを通じた科学的・政策的知見を集約し、各国政策・実事例の分析、結果を国内製作にフィードバックすることは極めて重要である。本研究では、主に生物テロ対策について、GHSAG BioWGで得られた当該問題への政策課題等について、情報還元と、本邦における改善点を提案することを目的とする。また、明らかにされた課題・改善点に継続的に対応していくために、本邦の健康危機管理対応に資する人材強化事項を検討する。

B. 研究方法

GHSAG を通じて、参加国における CBRNE テロ災害・マスギャザリングに関する科学的・政策的知見の状況を把握する。グループの活動には、定期的な電話会合及び年 2 回程度の対面会合への参加を通じて行い、情報の収集と分析、政策・人材育成強化に向けた課題と改善点のフィードバックを実施する。

(倫理面への配慮)

政策課題を扱う研究であり該当しない。

C. 研究結果

GHSAG BioWG 会合は、令和 2 年度は、関係する電話会合が計 4 回行われた。新型コロナの影響で対面会合は行われなかった。いずれの会合も、関係者が新型コロナ対応に注力しているため、特に新型コロナウイルス感染症の臨床マネジメントと医療機関内感染対策を中心とした意見交換の場となった。

表 1 電話会合の主な議題

4 月①: 感染後免疫、CT を活用した診断法、医療者の接触者の対応、マスクの再利用、COVID-19 感染後の真菌感染
4 月②: 高齢者施設の感染対策、救急外来での急性心不全等の現象について、コミュニティでのマスク着用の意義
10 月: 新規治療法の活用、一般病院の知見等の強化、ICU 収容キャパシティを超えた時の対応、
11 月: 抗原テストの活用、検疫期間の設定

D. 考察

本年度の活動は、COVID-19 の勃発により、実務的な対応に重きが置かれ、生物テロに

関する新たな知見は得られなかった。今後、継続して、COVID-19 への対応と意見交換を通じるとともに、COVID-19 対応からの生物テロへの教訓を議題として挙げ、バイオロジカルワーキンググループにおいて、より生物テロを中心としたグローバルな感染症問題について、専門的な議論を行う機会を探っていく必要がある。

E. 結論

世界健康安全保障行動グループバイオロジカルワーキンググループにおいては、新型コロナウイルス感染症対応に迫られる 1 年となったが、生物テロ事象を中心とした情報交換窓口として貴重であり、今後も枠組みを維持し、有事の際に専門的な知見から意見交換する枠組みを保持することが重要である。

F. 健康危険情報

特記事項なし。

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得: なし
2. 実用新案登録 : なし
3. その他 : なし